

市町村教育委員会の組織強化の現状

市町村教育委員会の指導主事の配置数等の推移

	人数(人)	全市町村数	配置市町村数	配置市町村 の割合(%)
H16	38	69	9	13. 0
H17	49〔2〕	42	11	26. 2
H18	66〔7〕	25	13	52. 0
...	...	...	...	...
H23	83〔3〕	25	15	60. 0
...	...	...	...	...
H27	87〔0〕	25	16	64. 0

※〔 〕の数字は、配置を拡充した市町村に県から充て指導主事を配置した数(3年間配置し、その後割愛)

県教育委員会と市町村教育委員会との連携システム

全県指導主事等連絡協議会

参加者

- 県教委（義務教育課、各教育事務所出張所、幼保推進課、高校教育課、特別支援教育課、保健体育課、総合教育センター）
- 市町村教委
- 教育専門監

部会 ○教科部会 ○領域・課題別部会

主な取組

- 4月 第1回全県指導主事等連絡協議会
 - ・本年度の重点に基づく共通実践事項の設定
- 9月 中間評価、後期の共通実践事項の設定
- 12月 第2回全県指導主事等連絡協議会
 - ・年間の評価 ・次年度の重点の設定
- 2月 最終評価

学校教育の指針
平成27年度の重点



最重点の教育課題

“「問い」を発する子ども”の育成



秋田わか杉 七つの「はぐくみ」

一 基礎・基礎、二 元気づけ、三 読解力、四 問題解決、五 読書体験、六 学級や授業の展開、七 ふるさとを伝える。

秋田県教育委員会

H27学校教育の指針 本年度の重点より抜粋

算数、数学

→指針P 36, 37

①「比較・検討」で学び合いが充実する授業づくり

- ◇「ねらいを達成した児童生徒の姿」からの授業づくりを進めるとともに、取り上げる考えを絞ったり視点を明確にしたりするなど、ねらいの達成に迫るための「比較・検討」を工夫改善する。

②「まとめ」や「評価と振り返り」の工夫

- ◇「比較・検討」等から分かったことについて、児童生徒の言葉でまとめたり、そのまとめが問題の解決に結び付くことを体験できる評価問題等を工夫したりするなど、「分かる」「できる」を実感させるようにする。
- ◇見通しや学び合いの場面における課題解決に有効だった方法や考え方等について記述させるなど、振り返りを工夫し、考え、表現する能力や学ぶ意欲、学んだことを活用しようとする態度を育てる。



見通しから振り返りまでの授業イメージ（例）

本県の課題

- ▶中学生になると、「好き」と回答する割合が低下する。
- ▶個々の見通しやつまずき等を生かした学び合いや、自らの変容等を実感できる振り返りの場を工夫する必要がある。
- ▶判断した理由について、根拠を明らかにし、図や式等の数学的な表現を用いて説明する力を高める必要がある。

目指す児童生徒の姿

- 既習内容を生かして考え、他者と協働してよりよく学ぼうとする態度が身に付いている。
- 根拠を明らかにし、数学的な表現を用いて方法や理由等を説明することができる。

道徳の時間

→指針P 54, 55

①「問い」を生かし、価値や生き方の追求につながる指導方法の工夫

- ◇展開における中心的な発問を軸とする発問構成の工夫により、児童生徒一人一人の感じ方や考え方を生かし、主体的に道徳的価値を追求できるようにする。
- ◇自分の考えを基に書く・話し合う・討論するなどの表現する機会を充実させ、児童生徒が自分自身への問い掛けを深め、自らの成長を実感できるようにする。

本県の課題

- ▶道徳の時間の授業に前向きに取り組む児童生徒の育成を努める必要がある。
- ▶自分の考えを基に表現する機会を充実させるなど、主体的に道徳的価値を追求させる場の設定を工夫する必要がある。

目指す児童生徒の姿

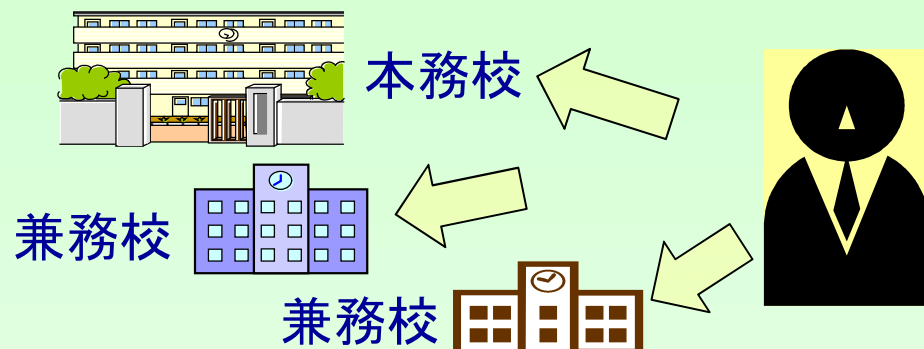
- 道徳的価値を自分との関わりで捉え、自己への問い掛けを深め、よさや可能性に気付くとともに、自分の課題に出会うことで自らを成長させようという意欲をもつことができる。
- 温かく望ましい人間関係を築き、様々な問いや意見を出し合いながら、主体的に道徳的価値を追求することができる。

小・中学校における教育専門監の活用(H18～)

趣旨

教科指導に卓越した力を有する教諭の資質能力を複数の学校に活用し、学校の教育力を高める。

市町村教育委員会から推薦→県教育委員会で認定審査・認定



本務校及び兼務校での
チーム・ティーチングによる授業実践

教育実践の紹介

市町村各種研修会等の講師

関係教育機関の要請への対応

H27概要 教科:国、算・数、理、英

	市町村数	専門監数	本務校数	兼任校数
H27	19	33	33	73
H18	4	4	4	9

本務校及び兼務校、当該市町村における成果が大きい



地区の教科の中核的な役割

- 学校の小規模化による教科指導の日常的な情報交換の不足
- 今後のベテラン層大量退職によるミドルリーダーの不足、若年層の増加



教科のネットワークの強化、教員全体の指導力の維持

教科指導CT(中核教員)養成研修会



CT(Core Teacher)



教科:国語、算数・数学、理科

人数:県北、中央、県南に各教科小・中2名ずつ

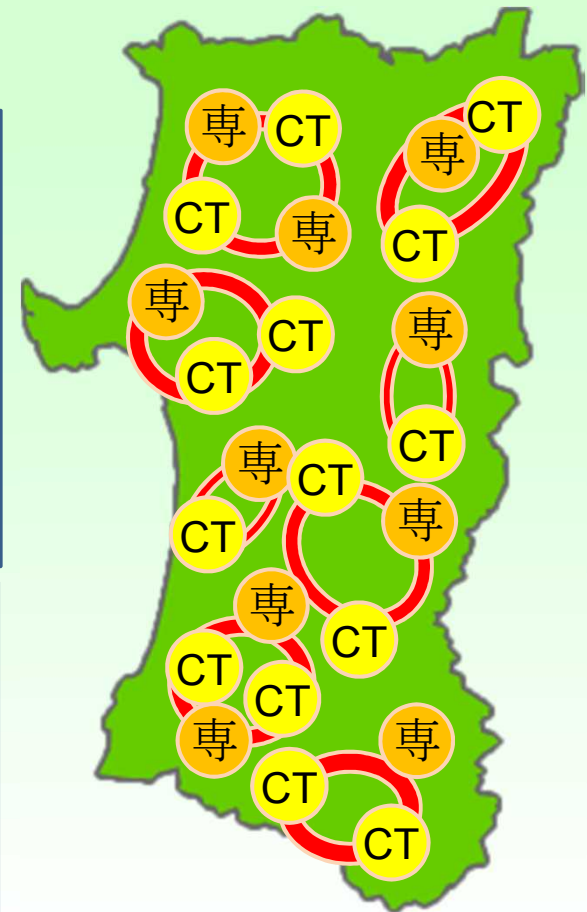
役割:各地区毎の教科研修会での授業提示
各地区の教科指導の情報提供や支援

各教科指導CT養成研修会

開催:各地区毎、各教科毎

参加者:各小・中の教科主任等(2年に1回悉皆)

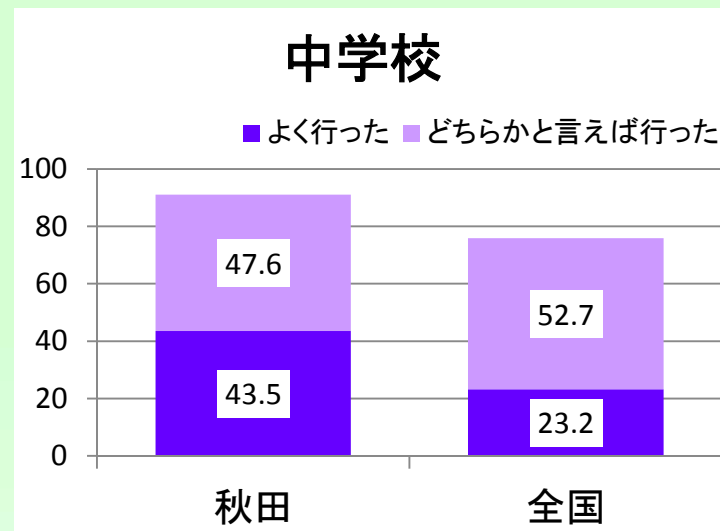
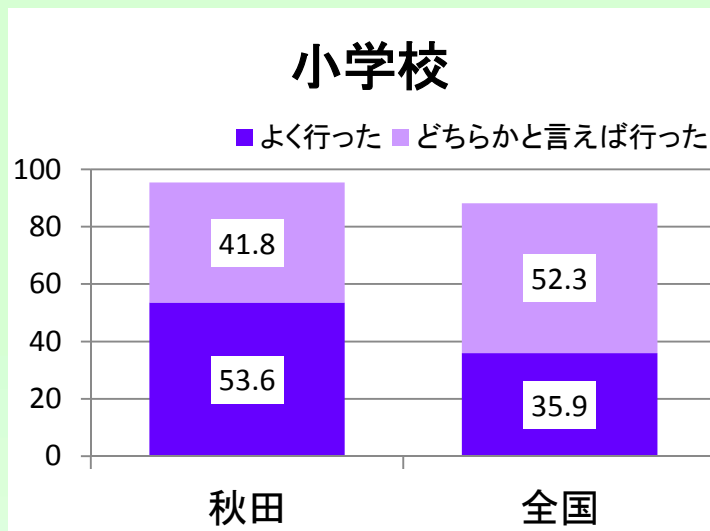
内容:CTの授業参観、協議等



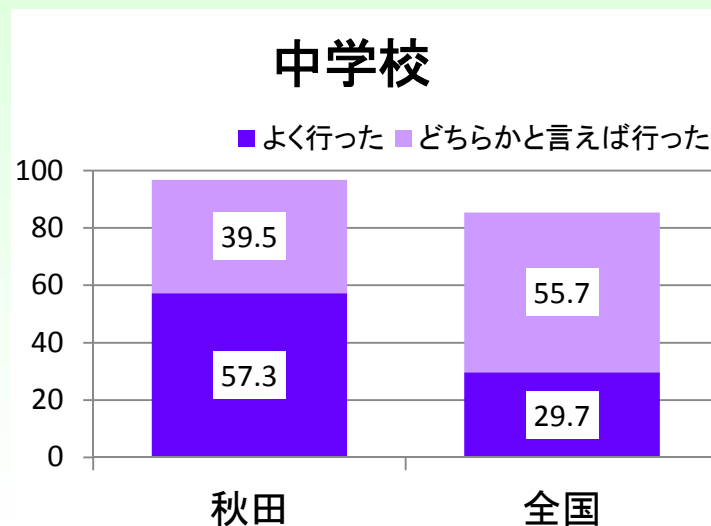
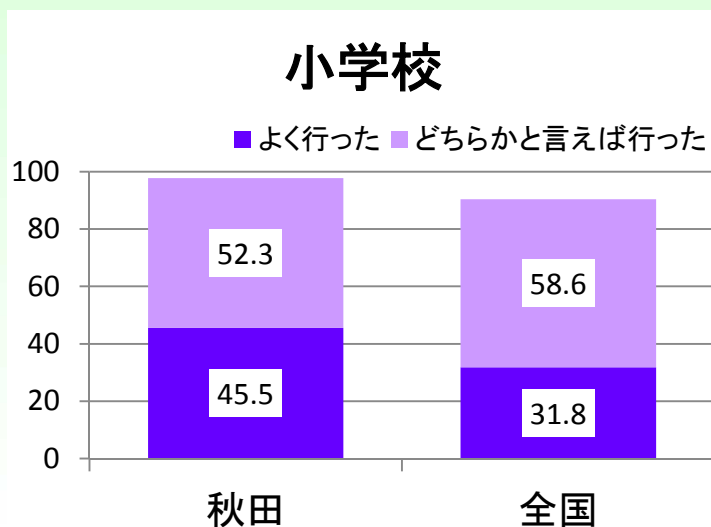
共通理解・共通行動

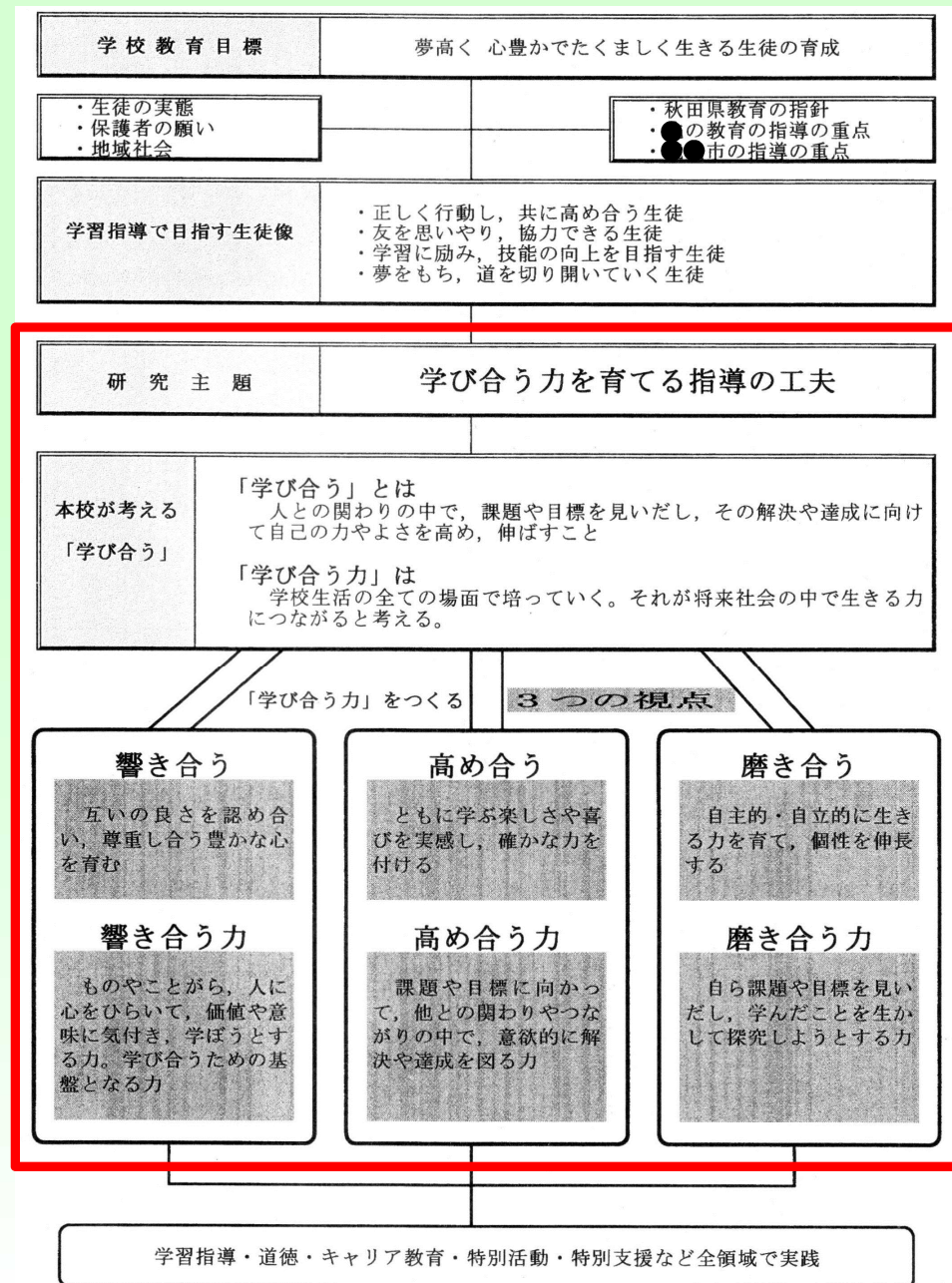
H26全国学力・学習状況調査質問紙調査より

言語活動の状況等について全教職員で話し合ったり検討したりしている



言語活動について各教科等を通じて学校全体として取り組んでいる





授業の基本パターンの提示

◇「学び合う」授業 基本的パターン

つかむ(響き合う)	学びたくなる学習課題や資料の提示 ゴールや見通しの提示
追究する (高め合う)	課題解決の手立てを示す 個の学びから学び合いへ、学び合いから個へ ＝「つなげる」「深める」学び合い
まとめる (磨き合う)	学びを確かめる ＝反復・まとめ・振り返り 学びを広げる ＝称揚・次時へのつながり・家庭学習とのリンク

共通の視点で教科の実践

1 理科における「学び合う力」とは

- (1) 事象との関わりから疑問や問題を見いだす力
[響き合う力]
- (2) 観察・実験の結果に基づき、予想に沿って考察する力
[高め合う力]
- (3) 科学的な言葉や概念を使用して適切に説明する力
[磨き合う力]

戦略的な授業研究会の視点

- ①学びをつなげ、学びを深める学び合いの工夫(共通)
- ②観察・実験の結果を基に考察する活動の手立て